

平成28年度 府中市立新町小学校 学校経営計画報告

平成29年3月16日

府中市立新町小学校

校長 須崎 和英

1 平成28年度 教育目標と目指す学校像

(1) 学校の教育目標

新町小学校は、人間尊重の精神を基調とし、児童・家庭・地域の願いを受け止め、知・徳・体の調和のとれた児童を育成する。そのために、思いやりの心をもった豊かな心の醸成や健全な身体と規律ある生活、基礎・基本を身に付け確かな学力を身に付けることを推進し、児童が安心して学び、学校生活を楽しむことのできる学校とする。また、異学年集団活動や動物とのふれあい、歌うことを楽しむなど体験的な活動も取り入れ児童の「生きる力」を育てていく。このような学校として教育を展開するために、次の目標掲げる。

- ◎よく考えて伸びる子（自ら課題を見つけ、深く考えたり表現したりする子供）
- 思いやりをもって伸びる子（自分と友達を大切にし、みんなと仲良くする子供）
- 体をきたえて伸びる子（健康で明るく、めあてをもって体力づくりに励む子供）

(2) 目指す学校像

「心のハーモニーを奏で」

⇒ 学校、保護者、地域が思いを一つにしながら、連携し一体となりながら児童を育む
「自分物語を作る学校」

⇒ 自分の将来をしっかりと見据え、自己肯定感をもち、自分の将来に明るい展望をもたせる学校。

「心と体を鍛え、学力を伸ばす学校」

⇒ 児童の学力を高めるために、豊かな心と健康的な体を身に付けることを基礎とし、励み鍛える体験を通して「生きる力」を育成する学校

2 平成28年度 学校評価に基づく学校経営計画報告

(1) 評価方法

教職員による学校評価に加え、保護者アンケートと児童アンケートを年間2回実施し、その結果を「新町小学校 スクール・コミュニティー委員会」にて報告し審議していただく。

(2) 評価項目と評価基準

「平成28年度 府中市立新町小学校 学校経営計画」の評価項目について実施する。今年度の取組みについては到達目標を80%に設定して、到達できた場合をA 80%～70%をB（不十分さは残るがだいたいできた）70%～60%をC（あまりできていない）それ以下をD（できていない）とする。表中の「評価指数」はアンケートのA～Dまでの割合から導いたものである。（ ）内は評価方法。

(3) 全体共通評価項目

① コミュニティー・スクール及び小中連携、一貫教育の実施状況・・・B

地域の方を講師とした学びは全学年（キャリア教育6年、米作り5年、植栽活動 栽培委員会、手話体験4年、お囃子3年、昔遊び1、2年）で実施して当初目標を達成した。また、本の読み聞かせは保護者と地域のボランティアグループが年間を通して実施ができた。スク

ール・コミュニティー委員会ではそれらの活動について報告し、地域との連携を含めて学校運営が良好に行われていること、児童の成長が見られたこと等の評価をいただいた。課題についてはより積極的に地域活動に児童が参加する環境を整備することである。

小中連携は小学校授業に中学校教員がT Tで参加したり、中学校に6年生が行って授業を受けたりするなど大きな進展があった。課題としては小中連携事業が保護者に伝わっていないことがあげられる。学校便りやHPを使った周知の改善を求められた。

来年度は市の総合防災訓練を学校公開と共に行う準備が進んでいる。このことを起点にして、さらに地域に開かれた学校にしていく所存である。

② 「学校経営支援予算」の活用及び成果と課題・・・A

学校経営支援予算を「学習指導」「生活指導」「特別支援」「学校図書館」「水泳指導・補助員」の支援員雇用のために活用し、予算を効果的にすべて執行することができた。特に算数少人数指導で習熟が困難な児童への学習支援は、本人が意欲的に学習に向かうことができるなど成果をあげた。課題はクラスや児童のニーズを細かく把握し、より迅速に対応する体制がまだ十分でないことである。

③ 副校長等公務改善支援事業の活用及び成果と課題・・・A

昨年度より校務支援をより計画的に進めることができ、副校長が経営的視点で学校運営を進めることができた。O J Tも時間が確保され充実してきた。課題は副校長が年間の見通しをもって支援業務を計画的に進めさせることである。

④ 東京都や市の研究協力等の制度の活用及びその成果と課題・・・B

オリンピック・パラリンピック教育推進教育では、講師派遣と体育消耗品の購入を進めることができ、一流アスリートを講師として招聘した授業では、トライアスロンの競技者を迎え、主に走力の向上を目指した。来年度の課題は今年計画した「友達プロジェクト」等を計画的に実施していくことである。

(4) 本校評価項目

<豊かな心を育む>

① 他者を思いやり・尽くす心を育てる。

○ 教師の率先垂範により、進んであいさつする児童を育成する。・・・B

(学校評価)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	12.5%	68.8%	18.8%	0.0%	0.0%	B
学校後期	0.0%	81.3%	18.8%	0.0%	0.0%	B

※ あいさつ運動の実施や日常の挨拶励行など取り組んでいるが、進んで挨拶をする児童は全体の70%くらいである。評価はBとする。

○ ボランティア活動の実施。縦割り班活動の充実。・・・B

(学校評価 保護者アンケート)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	12.5%	81.3%	0.0%	0.0%	6.3%	B
学校後期	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	0.0%	B
保護者前期	13.5%	55.0%	26.0%	4.0%	1.5%	C
保護者後期	21.3%	52.8%	19.8%	6.1%	0.0%	B

※ 肯定的評価が80%を超すも、A評価が少ないため全体としてBとする。後期保護者評価

が8ポイントほど伸びた点は成果としてとらえる。

② 学校がやすらぎの場となる環境作りを進める

- 間違っても冷やかしなどなく、安心して挙手できる。・・・A

(学校評価 児童アンケート)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	A
学校後期	18.8%	81.3%	0.0%	0.0%	0.0%	B
児童前期	58.0%	29.5%	5.2%	2.0%	5.2%	A
児童後期	60.7%	28.1%	5.6%	2.3%	3.3%	A

※ 学校評価で否定的な評価が無いこと、児童評価ではA評価が高いため全体としてAとする。

- 放課後総合プランに基づいた関係機関との連携を進める。・・・A

(学校評価)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	12.5%	75.0%	6.3%	0.0%	6.3%	B
学校後期	31.3%	68.8%	0.0%	0.0%	0.0%	A

※ 肯定的評価が80%を超し、A評価が伸びていることから評価はAとする。後期学校評価で否定的な評価が無い点は成果としてとらえる。

③ 目標に向かって努力できる支援体制と環境づくりを推進する。

- 努力したり成果を上げたりした児童の紹介や表彰を行う。・・・A

(実施状況)

※ 各月の最終児童朝会で表彰式を行ってきた。月を重ねるごとに表彰希望者が増え毎回4～5グループの表彰を行うようになった。児童の「頑張ろう」とする意欲も高まり、学校として参加している競技でも良い成績をとるようになった。よってA評価とする。

④ 動植物の飼育・栽培を通して優しい心情を育てる。

- 動植物の飼育・栽培に進んで取り組む児童の育成。・・・A

(学校評価)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	31.3%	50.0%	12.5%	0.0%	6.3%	B
学校後期	43.8%	56.3%	0.0%	0.0%	0.0%	A

※ 肯定的評価が90%を超し、後期評価では否定的評価が無くなったため評価をAとする。4年生がヤギの飼育に取り組んでいるが、後期から他の学年でも犬やウサギなどの飼育体験を行ったことが成果としてあげられる。

<健やかな体を育む>

① 体力の向上を図り、健康な体づくりを進める

- オリンピック・パラリンピック教育推進校事業における派遣講師の活用で体育授業を改善し、体育好きの児童を育成する。・・・B

(学校評価 授業観察)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	37.5%	37.5%	6.3%	0.0%	18.8%	C
学校後期	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	0.0%	B

※ 評価指数はBとCとなっているが、授業観察からは児童が進んで体育の学習に取り組む姿が見られたこと。後期のB評価が大きく伸びたことから評価はBとする。後期学校評価で否定的な評価が無い点は成果としてとらえる。

○ 体力テスト結果から児童実態を把握し、学級ごとに取組み計画を作成する・・・C
(計画書の提出)

※ 体力テストの結果を分析して体育の学習に活用する段階までは進んだが、計画書まで作成することができなかつたので、評価はCとする。

② 体を動かす習慣を定着させる

○ 休憩時間に校庭・体育館で体を動かす遊びを推奨する・・・A
(児童アンケート 行動観察)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
児童前期	67.2%	19.0%	7.2%	4.9%	1.6%	A
児童後期	72.4%	14.8%	6.9%	4.9%	1.0%	A

※ 児童評価では多くの児童が休み時間に体を動かしていることが分かる。実際休み時間に教員も校庭や体育館に出て、児童の安全管理・指導に当たっていることから「遊びの推奨」は十分できていると捉えることができ。評価はAとする。しかし、「あまりできていない」「できていない」と答えている児童が10%以上いることは今後改善すべき課題である。

③ 健康への関心を高める保健指導を推進する

○ 冬季における「手洗い・うがい」の取組み状況・・・A
(行動観察)

※ 児童様子を観察していると、多くの児童が手洗いうがいに取り組んでいる。保護者アンケートでも学校の取組みが高く評価されているので、評価はAとする。

④ 食育を進め、自ら栄養バランスの取れた食事への関心を高める

○ 好き嫌いなく食べる指導を実施する・・・A
(給食の残菜調査 給食の状況)

※ 残菜率の調査から新町小は市中市内の他の学校とほぼ同じである。各クラスの食事の状況を見ると、個人差が大きく食が細い児童からお代わりを積極的にする児童まで様々である。各学級では食育を進めているが、食べることを無理強いするような指導は行っていない。

6年生の給食時の様子からは、主菜、副菜ともまんべんなくよく食べていることから評価はAとする。

⑤ 規律正しい生活の定着

○ 児童の生活習慣を調査し改善の手立てを行う・・・B
(学校評価 保護者アンケート)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	12.5%	62.5%	18.8%	0.0%	6.3%	C
学校後期	6.3%	87.5%	6.3%	0.0%	0.0%	B
保護者前期	49.0%	40.0%	3.5%	0.5%	7.0%	A
保護者後期	43.1%	44.2%	4.6%	0.5%	7.6%	B

※ 保護者評価と学校評価後期では肯定的評価が80%を超すも、改善の余地があるとしてB評価とする。保護者アンケートで「不明」の回答が7%ほどあることは、学校の取り組みが分かりにくいと捉えている保護者が多いことがあげられる。

⑥ 自らの命を守る

○ 「自分の命は自分で守る」の講話を毎月行い、言葉を定着させる。・・・A
(児童の状況)

※ 各学期に児童朝会や避難訓練時に毎月のように「自分の命は自分で守る」の講話を実施。「自分の命は」と問いかけると「自分で守る」とすぐ返事が来るようになった。また、具体的にどのような行動をとることが大切か伝えることで、日ごろの交通安全にも生かされている(交通事故を未然にふさいだ事例から)。よって評価はAとする。

<確かな学力をつける>

① 児童自らが「賢くなりたい」という意欲を高める授業の実践

○ ねらいがはっきりした、わかる授業、興味が高まる授業の実践。・・・B
(授業観察 学校評価)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	12.5%	81.3%	6.3%	0.0%	0.0%	B
学校後期	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	0.0%	B

※ 各学期に1回以上の授業観察を行い、学習指導において「ねらい」が明確化しているか、意欲を高め、思考力が伸びる学習形態になっているかを確認した。すべてのクラスで「ねらい」を板書し、児童が「ねらい」について分かりやすい授業を実施して点は高く評価できるが、意欲を高め、思考力が伸びる授業にはまだ課題がみられる。学校評価からも課題がまだある点が指摘されており、この項目の評価はBとなる。

② 基礎的・基本的な学力の定着

○ ベーシックドリルを活用し、該当学年で学ぶ内容を習得させる。・・・B
(効果測定 保護者アンケート)

・ベーシックドリル1学期効果測定値

	小3	小4	小5	小6
平均正答率	74%	74%	67%	73%

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
保護者前期	45.5%	46.5%	7.0%	0.5%	0.5%	A
保護者後期	46.2%	43.7%	8.1%	2.0%	0.0%	A

※ 1学期末に行ったベーシックドリルの効果測定では、各学年とも70%程度の正答率となっている。朝学習を使って習熟を進めているので3学期にはこの数値は高まっていると推測できる。保護者アンケートからは基礎基本の習得はしっかりできていると捉えられている。まだ課題もあるので評価はBとする。

③ 「言語活動」を重視し、思考力を高める分かる授業を実践する

○ 読書の励行。・・・B
(学校評価 読書状況調査)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	25.0%	68.8%	0.0%	0.0%	6.3%	B
学校後期	18.8%	75.0%	6.3%	0.0%	0.0%	B

※ 今年度の図書貸し出し率は4月～1月の9か月間において一人月平均3.6冊となっている。週に1冊は図書室から本を借りて読んでいるとことになる。日頃の図書室の活用状況を見ても本校の児童は本を読んでいる状況がみられる。学校評価から肯定的評価が90%を超しているが、A評価が少ないため全体的にはB評価とする。

④ 個に応じた指導を進める

- 臨時校内委員会を随時実施し、支援が必要な児童、学級へ対応を早急に行う。・・・A
(学校評価)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	A
学校後期	37.5%	56.3%	6.3%	0.0%	0.0%	A

※ 2学期以降、問題が生じたときには必ず校内委員会を開催し解決にあたった。生活指導主任が中心となって進めることができた。会議の回数は増えたが、児童の指導のためには効果的であった。よって評価はAとする。

⑤ 9年間を見据えた小中連携

- 6年生の中学校授業体験など小中連携事業を推進する。・・・C
(学校評価)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	0.0%	75.0%	12.5%	0.0%	12.5%	C
学校後期	0.0%	81.3%	12.5%	0.0%	6.3%	C

※ 小中連携事業は確実に推進し、後期になって肯定的評価が80%を超えるなど評価が上がっているものの、今年度は本校への訪問がない年だったので具体的な取組を進めづらいこともあり、自信をもって「できている」と評価することができなかったことが評価指数の低さに表れている。来年度に向けて「学び」の視点では小中一貫教育推進プロジェクトチームから出された「カリキュラム接続に向けた指導の重点モデルプラン」を基に学習指導の改善を進めること。「育み」の視点からは「SNSルール」作りを基軸にした取組を行うことを確認している。具体的な取組が明らかになったことは大きな成果だが、保護者へのから取り組みがよく分からなかったという大きな課題もあることから今年度の評価をCとする。

<教育環境の充実>

① 児童に対して情熱をもって指導にあたる教師集団

- 児童を鍛え、高める指導の実施。・・・B
(人事考課面接 授業観察)

※ 朝の始業前や放課後に児童の個別指導を行ったり、スポーツ大会前に保護者の了解のもと練習を行ったりしている教員がいる。また、児童が分かるまで繰り返して指導を行う教員もいる。これからの教員の指導で児童の力は伸びている。このような情熱をもった指導を行う教師をさらに増やすことが今後の課題である。評価はB。

② 多忙感を解消し、指導に専念できる環境

- 校務改善事業による講師や支援員の効果的な活用。・・・A

(職務記録)

※ 本年度より副校長公務改善支援員が配置され、副校長への負担が大きく軽減され、若手教員の指導やOJTに向ける時間が確保されたことは大きな成果である。評価はAとする

③ 職務に関する選択と集中を進める

- 分掌上の分担の明確化と組織の改革。・・・B

(学校評価)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	0.0%	81.3%	18.8%	0.0%	0.0%	B
学校後期	6.3%	75.0%	6.3%	0.0%	12.5%	C

※ 本年度当初の経営部会で校務分掌上の不備が報告され、それぞれの仕事内容の明確化に取り組んできた。学校評価指数ではBからCへととなっているものの、Aの評価が高まりC評価が下がるなど改善は進んでいる。来年度は主幹教諭と主任教諭の職務上の役割を明確にすることで各分掌の主任の力を高めていくこと。新たに「分析」担当主任を置き、PDCAサイクルの中でCとD(評価と改善)の部門を強化していくことを進めていく。これらの改善案を教員の中に浸透させることが課題である。今年度の評価はB。

④ 学校施設・設備の整備を進める

- 清掃が行き届き、きれいな学校。花いっぱい、緑いっぱいの校庭を維持する。・・・A

(学校状況)

※ 校庭の樹木が高齢化し、枝が折れて危険な状況になったこともあったが、素早い業者との連携、予算の執行により事故を免れている。栽培委員会の児童と植栽ボランティアの働きで校庭に花が絶えず咲いている。用務主事により校庭の雑草も刈られ、校庭整備はきれいな状況が続いている。評価はA。

- グリーンランドの活用のための指導計画を作成する。・・・C

(学校評価)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	6.3%	87.5%	0.0%	0.0%	6.3%	B
学校後期	6.3%	81.3%	0.0%	0.0%	12.5%	C

※ ヤギの飼育や植物観察でグリーンランドを活用しているが、整備が進んでいない状況で活用のための計画書もできていない。よって評価はC。

⑤ 安全・安心な環境づくりを進める

- 関係機関と連携し、いざという時のための体制を整備する。・・・A

(整備状況)

※ 来年度に引き渡し訓練、避難所開設訓練を9月17日(土)に実施する運びとなった。この間に府中市防災管理課、スクール・コミュニティー委員会、PTAとの協議や視察を通して準備を進めることができた。時間をかけ丁寧に取り組みを進めることができた。評価はA。

<保護者、地域との連携>

① 学校への満足度を高めるための努力を惜しまない

○ 保護者の対場に立った対応を進める。・・・A

(保護者アンケート 職務観察)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
保護者前期	43.0%	46.5%	7.0%	1.0%	2.5%	A
保護者後期	43.1%	44.2%	8.6%	1.5%	2.5%	A

※ 「学校はお子さんのことについて保護者の方としっかり話し合ったり、情報共有したりしている」という問いに対して上記のような回答をいただいている。若手教員の中には児童の問題行動や事故の対応で保護者対応を苦勞している場面も見られるが、ベテラン教員の指導と学校の組織的な支援の下で保護者との信頼関係を築いている。評価はA。

② 地域との連携を高める

○ 地域人材の活用を進める。・・・A

(学校評価 人材活用状況)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	6.3%	87.5%	0.0%	0.0%	6.3%	B
学校後期	18.8%	81.3%	0.0%	0.0%	0.0%	B

※ 肯定的な評価が90%を超えているが「ほぼできている」の評価が少ないため評価指数はBとなっているが評価は前期より後期のほうが高くなっている。後期になってから3年生のお囃子体験、4年生の車いす体験、6年生のキャリア教育への講師活用など人材活用は高まっている。評価はAとする。

③ 地域・関係機関と連携した活動

○ 地域との連携をすすめ、信頼関係を高める。・・・B

(学校評価)

	A(ほぼできている)	B(物足りない面もあるができています)	C(あまりできていない)	D(できていない)	E(不明)	評価指数
学校前期	0.0%	87.5%	6.3%	0.0%	6.3%	C
学校後期	18.8%	62.5%	12.5%	0.0%	6.3%	B

※ 地域人材との連携は高まっているが、教員や児童が進んで地域行事に参加して、地域との信頼関係を高める状況にはなっていない。管理職が地域行事に進んで参加し、地域との関係をもち信頼関係を築いているがまだ課題は多い。評価はB。